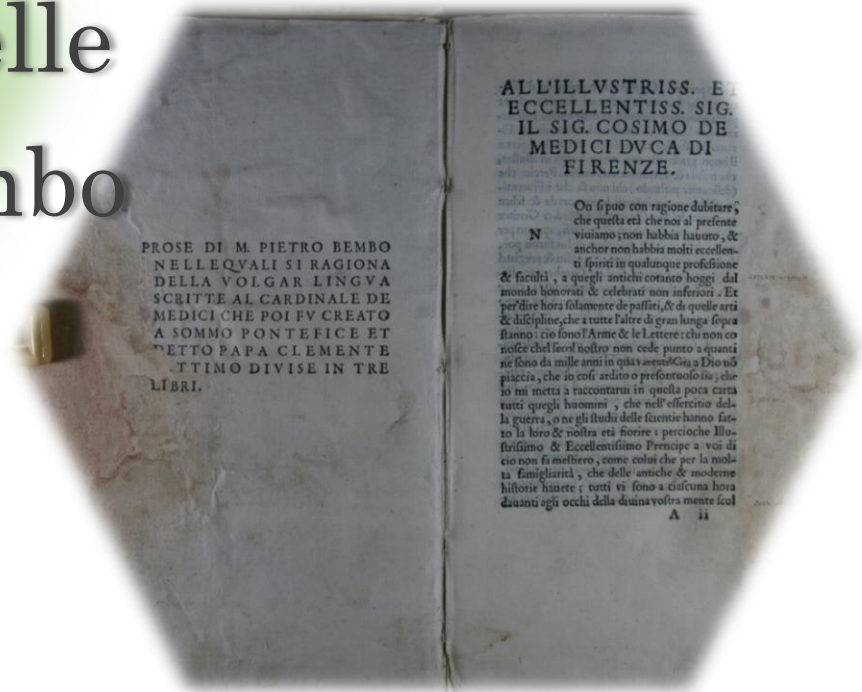


■イタリア文学セミナー■

Pulsoni 教授講演会

ベンボ『俗語論』の自筆訂正痕

Il postillato autografo delle Prose di Bembo



日時：2018年6月20日（水）13時

場所：京都大学文学部 第5講義室

言語：イタリア語

講師：カルロ・プルソーニ教授

（ペルージャ大学ロマンス語文献学科）

図版：Torrentino 版『俗語論』冒頭（ヴァルキによるイントロダクション）

ピエトロ・ベンボの『俗語論』は初版が1525年に出版されたものの、その後も版を重ねるごとに推敲と加筆が行なわれ、最終決定版となった1549年のTorrentino版こそがイタリア語史に大きな影響を及ぼしたテキストとして重んじられてきました。しかしながら、この版のテキストは、初版の一冊にベンボが行なった加筆・訂正に基いて、彼の死後にベネデット・ヴァルキ主導の下に決定されたという経緯をたどっており、このことからベンボ自身の意図がどこまで忠実に反映されているのかについて若干の疑問が提起されています。

6月に来日されるプルソーニ教授は、このTorrentino版『俗語論』のベースとなった、ベンボ自身の書き込みのある初版本そのものを某個人蔵書の中に発見し、これに関して詳細な調査を実施されました。この研究により、ベンボが行なった作業の各段階が特定されると同時に、ヴァルキが意図的に削除したと思われる、これまで知られることのなかった叙述の存在が明らかになる等、イタリア語史の研究にとって画期的な数多くの事実が判明しつつあります。今回の講演では、この先端的な研究成果の詳細をお話しいただく予定です。

主催 京都大学文学部イタリア語学イタリア文学専修

Tel./Fax: (075)753-2774

E-mail: italomaniakyo@hotmai.com